

中小企業景況調査報告書

令和元年 7～9月期実績

令和元年 10～12月期見通し






始良市商工会

(令和元年10月発行)

この調査は、始良市の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を収集して実施しているものです。

























この報告書の中で、用いられているD・I指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

〈お天気マークの説明〉

 特に好調 +30.0 以上	 好調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	---	---	--	--

- 調査対象期間 令和元年7～9月期を対象とし、調査時点は令和元年9月1日とした。
令和元年10～12月期は予測値となる。
- 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
- 調査対象商工会 始良市商工会
- 回答企業 対象企業 30企業
製造業：7企業 建設業：7企業 小売業：8企業 サービス業：8企業
(※始良市30企業を基に指数を表示しており、あくまでも参考指数と理解下さい。)

県内産業別業況DI

		製造業		建設業		小売業		サービス業	
対前年 同月比	30年 7月～9月期		14.3		14.3		▲25.0		12.5
	30年 10月～12月期		▲14.3		0.0		▲75.0		0.0
	31年 1月～3月期		14.3		14.3		▲50.0		▲25.0
	31年 4月～6月期		0.0		0.0		▲25.0		▲12.5
	1年 7月～9月期		0.0		14.3		▲37.5		▲12.5
	来期見通し(10～12月期)		0.0		14.3		▲37.5		0.0

総合(業況)

前年同期(平成30年7月～9月期)と比較した今期(令和元年7月～9月期)の業況は、製造業0.0(前年同期14.3ポイント悪化)、建設業14.3(前年同期と変わらず)、小売業▲37.5(前年同期12.5ポイント悪化)、サービス業▲12.5(前年同期25.0ポイント悪化)となった。今期の業況は、前年同期と比較して、建設業以外悪化となった。特に製造業・サービス業は、原材料の価格上昇などの理由もあり前期より大幅な悪化となった。

来期(令和元年10月～12月期)の見通し(ID)としては、今期と比較すると、製造業、建設業、小売業では変わらないものも、サービス業では改善が予想される。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数 7 企業

調査対象企業内訳：食料品(2)、窯業(1)、衣類(1)、家具(1)、印刷(1)、ガラス製品(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
30年 7月～9月期		14.3		0.0		14.3		14.3
30年 10月～12月期		▲28.6		▲28.6		▲14.3		▲14.3
31年 1月～3月期		▲28.6		▲14.3		0.0		14.3
31年 4月～6月期		▲14.3		14.3		14.3		0.0
1年 7月～9月期		0.0		0.0		0.0		0.0
来期見通し(10～12月期)		14.3		14.3		14.3		0.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・昨年度、パンラインを撤去し、やきとり焼き上げを中心に製造を行ってきたが、熟練製造員の不足や、機械の老朽化により製造効率にムラがあり、利益を損なっている面がある。最低賃金の引き上げも近く効率改善の検討が必要。

<経営上の問題点>

- ・需要の停滞、熟練技術者の確保難、原材料不足が上位を占め、生産設備の不足・老朽化、原材料価格の上昇、製品ニーズの変化への対応、原材料費・人件費以外の経費の増加を問題としている企業もある。

【建設業】 有効回答数 7 企業

調査対象企業内訳：総合工事業(2)、設備工事業(1)、職別工事業(4)

	完成工事額		採算		資金繰り		業況	
30年 7月～9月期		▲28.6		14.3		14.3		14.3
30年 10月～12月期		▲14.3		0.0		14.3		0.0
31年 1月～3月期		▲14.3		14.3		0.0		14.3
31年 4月～6月期		▲14.3		14.3		0.0		0.0
1年 7月～9月期		0.0		▲14.3		14.3		14.3
来期見通し(10～12月期)		0.0		14.3		14.3		14.3

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・材料の欠品があったり、運送の遅れがあったりと、工程に支障をきたす時あった。

<経営上の問題点>

- ・材料価格の上昇、官公需要の停滞、熟練技術者の確保難が上位を占め、民間需要の停滞、材料費・人件費以外の経費の増加、人件費の増加を問題としている企業もある。

【小売業】 有効回答数 8 企業

調査対象企業内訳：飲食料品(4)、衣服(1)、各種商品(1)、石油(1)、その他(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
30年 7月～9月期		▲25.0		▲25.0		▲12.5		▲25.0
30年 10月～12月期		▲37.5		▲25.0		▲12.5		▲37.5
31年 1月～3月期		▲62.5		▲37.5		▲37.5		▲50.0
31年 4月～6月期		▲37.5		▲12.5		▲12.5		▲25.0
1年 7月～9月期		▲50.0		▲37.5		▲12.5		▲37.5
来期見通し(10～12月期)		▲25.0		▲37.5		▲12.5		▲37.5

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・豪雨や台風により客足が遠のいた。天候が左右されにくい経営体制の構築が必要であると感じている。

<経営上の問題点>

- ・販売単価の低下・上昇難、消費者ニーズの変化への対応、大型店・中型店の進出による競争の激化、購買力の他地域への流出が上位を占め、需要の停滞、同業者の進出、人件費以外の経費の増加、店舗の狭隘・老朽化を問題としている企業もある。

【サービス業】 有効回答数 8 企業

調査対象企業内訳：洗濯業(2)・理美容業(3)、飲食店(2)、その他(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
30年 7月～9月期		▲25.0		▲12.5		12.5		12.5
30年 10月～12月期		0.0		▲12.5		0.0		0.0
31年 1月～3月期		▲12.5		▲12.5		▲25.0		▲25.0
31年 4月～6月期		▲12.5		▲25.0		0.0		▲12.5
1年 7月～9月期		▲12.5		▲12.5		0.0		▲12.5
来期見通し(10～12月期)		12.5		0.0		12.5		0.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・日韓関係の悪化で、韓国からの来店客が減少した。
- ・働き方改革や人件費の増加など、今後会社の利益を確実に増やしていかなければならない。舵取りが大変難しい。今のところは高単価商品化を進めている。
- ・前年同期に比べ売上が僅かだが増えた。人手が不足した分、人件費が減り利益が増加した。人手不足を補う投資をすれば、まだ売上は伸びる。

<経営上の問題点>

- ・従業員の確保難、店舗施設の狭隘・老朽化、利用者ニーズの変化への対応、新規参入業者の増加が上位を占め、人件費の増加、需要の停滞、従業員の確保難、人件費以外の経費の増加、材料等仕入単価の上昇を問題としている企業もある。

鹿児島県金融経済概況

【概要】

鹿児島県の景気は、緩やかな回復を続けている。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費および観光は、底堅く推移している。住宅投資は、貸家を中心に弱含んで推移している。公共投資は、下げ止まっている。生産は、弱含んでいる。

企業部門の動向を短観（9月＜鹿児島・宮崎両県集計分＞）で見ると、景況感は、良好な状態を維持している。設備投資は、高水準で推移している。また、人手不足感は、強い状況が続いている。

こうした企業動向を反映して、雇用・所得環境は、改善している。

【各論】

1. 個人消費

百貨店・スーパー販売額は、前年を下回った。家電販売額は、前年を下回って推移している。乗用車新車登録台数（含む軽自動車）は、前年を上回って推移している。

2. 観光

主要ホテル・旅館宿泊客数は、前年を下回って推移している。主要観光施設入場者数は、前年を下回った。

3. 公共投資

公共工事請負金額は、前年を下回った。

4. 住宅投資

新設住宅着工戸数は、貸家と分譲を中心に前年を下回った。

5. 生産

鉱工業生産指数（季節調整済）は、電子部品・デバイス、パルプ・紙・紙加工品を中心に前月を上回った。

6. 雇用・所得環境

求職者数は減少基調を続けており、有効求人倍率（季節調整済）は、高水準で推移している。現金給与総額は、前年を上回った。常用労働者数は、前年を上回って推移している。

7. 物価

消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は、前年を上回って推移している。

8. 金融面

預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。貸出約定平均金利は、緩やかな低下が続いている。企業倒産件数は、低水準で推移している。